

世界遺産アカデミー認定講師 File No.44

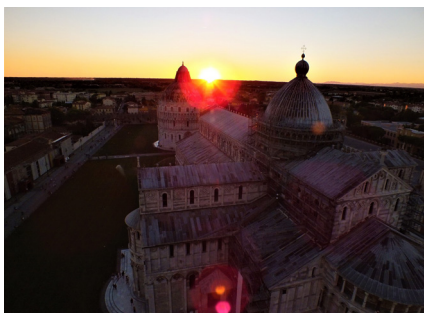
このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第44回目は、愛知県の杉浦 直樹さんです。杉浦さんは歯科医の傍ら、旅行趣味が高じて旅行業界の各種資格を取得。学生時代は剣道部そして美術部に所属し、美術館巡りもご趣味。今回は、そんな杉浦さんに、世界遺産の旅行体験や勉強したきっかけ、想いなどについて、語っていただきました。

——「自由の女神」の衝撃!

初めて世界遺産に出会ったのは、初めての海外旅行で31歳の時。大学卒業後、大学病院に勤めて7年目に国際学会で発表することになり、アメリカ合衆国のワシントンD.C.を訪れました。その帰りにアムトラックに乗って“お上りさん”的にニューヨークへと向かい、バッテリー・パークからフェリーに乗船し、単に観光名所として「自由の女神」を観に行きました。既に「自由の女神像」は1984年に文化遺産登録されていましたが、私自身は訪問時に「世界遺産」という言葉すら知りませんでした。映画「猿の惑星」で、チャールトン・ヘストンが、猿の惑星だと思っていたこの地が、実は核兵器によって崩壊した後の地球だった……と気づく、あの衝撃的なラストシーンと重なって、台座も含めて93mの巨大な構造物に圧倒されたのを覚えています。フェリーの船上からマンハッタンに聳える“摩天楼”と呼ばれる超高層ビル群を見た時には、アメリカの建築技術に驚愕し、下船後、その中で最も高層の、高さ419m、110階のワールド・トレード・センターの屋上展望デッキに登り、眺めた景色は壮観でした。まさか、この超高層ツインタワーに旅客機が激突し炎上崩壊してしまうとは、誰が想像できたでしょう。

次に訪れた海外は、国際学会が開催されたオランダのハーグ。自分の発表が終われば、後は観光!です(笑)。医局の先輩とアムステルダム、ベルギーのアントワープ、ブルージュ、パリ、ロンドンと巡り、「ここまで来たら、行けるところまで!」と意気込んで、ロンドンでレンタカーを借り、ビートルズ生誕の地、リヴァプールまで足を伸ばしました。その時も、将来リヴァプールが世界遺産、ひいては危機遺産、その後、登録抹消になるとは、思いも寄りませんでした。

旅先では、人けのない早朝の旧市街、夜明けの風景、夕陽や夜景など、時間と場所を定めて、写真を撮影します。世界遺産を撮影しようとする、どうしても人が映り込んでしまいます。事前に撮影に適した時間帯と場所を調べて、絶妙なタイミングを狙います。知らない街を歩くと、偶然に予期せぬ風景に出遭えて楽しいです。素晴らしい光景が目に見え込んできた時は、感動心が弾みます。暮れなずむヴェネチアも然り。せっかく撮影するなら、「この1枚!」を残したいですね。



ピサの斜塔からの夕陽

——非日常としての世界遺産

大学病院を退職して、表参道のクリニックに勤務。その後、愛知県安城市に移り自宅開業、現在に至っています。自宅兼職場ですと、通勤時間ゼロ。靴を履かなくて済みます(笑)。朝起きて、準備して診療するだけの繰り返しの生活にはスパイスが必要です。息抜きのために旅行の回数が増え、趣味となり、独学で「総合旅行業務取扱管理者」資格を取得しました。添乗員に必須の「総合旅程管理主任者」の資格取得には対面研修も必要でしたので、東京の「トラベル&コンダクターカレッジ」まで通い、次田 博先生にお世話になりました。「旅行業起業・開業講座」も受講しましたが、さすがに開業はできませんね(苦笑)。その流れで出逢ったのが、世界遺産検定です。目黒 正武 先生の講義を受け世界遺産に関心を持ち、宮澤 光 先生の著書も読み、「ガイドンスナビゲーター」を経て「WHA認定講師研修」にも興味本位で参加。今やWHA認定講師の末席を汚しながら講演する機会をいただいています(汗)。



ソルフェリーノ橋上で偶然出逢ったアルノ川の夜景

「非日常」を求めて始めた旅行趣味ですが、世界遺産を学ぶことで、世界の見方、感じ方も変わりました。また、普段出会えないような人々との、新たな繋がりができました。私にとっては、別世界への入口です。英語は得意ではありませんが、旅先で出会った方と世界遺産のお話をすると、会話が弾んで、喜ばれます。ちなみに、「観光英語検定2級」を受検した時には、「小笠原諸島」が出題されて、世界遺産の知識が役立ちました。

岩倉シニア大学での講演は今年2022年で5年目を迎え、私自身が成長させていただいています。愛知県保険医協会では歯科アシスタント講座の講師をしていますが、こちらは私の専門分野ですので、緊張せずに臨めます。一方、世界遺産の講演については、私は旅行が好きだけで専門家ではありません。向学心旺盛なシニア世代の方々が満足して下さっているのか不安ですが、90分間という短い中で世界遺産の魅力を伝えるために、毎回いちから学習し直します。また、旅先での写真、遺産の入場券やパンフレット、列車の切符、地図などを供覧しながら飽きの来ない楽しい講演を目指しています。人生の先輩方への講義には常に緊張感がありますが、毎回、定員を上回るご来場で、嬉しく思っています。続けられるのはマネージメントやスライド作成を助けてくださるWHA認定講師担当の金井 珠美 さんのおかげです。

——大切にしたい「原爆ドーム」

旅行業の知識を得たことで、効率的な周遊の仕方、現地チケットや格安航空券の購入、宿泊施設の調整などを合理的にこなせるようになりました。旅行におけるTIPSや海外のWebサイトの利用方法、ちょっとした雑学などもご紹介していきたいです。中国五岳の筆頭、泰山へは、中国語もできないのに、ひとりで上海から寝台列車に乗り、向かいました。早朝到着し、麓から歩いて岱廟を経て、周囲の自然を堪能しつつ、あの7,000段の石段を汗をかきながら登り、登山道にある数々の祠堂や巨大な刻石、そして頂上から眺めた景観は、達成感とともに感無量でした。

オススの世界遺産は?と訊かれて、いくつも頭に浮かびますが、特にオススは、「広島平和記念碑(原爆ドーム)」。“一度は行って感じてほしい世界遺産”です。原子爆弾という兵器が生まれ、人類史上初めて広島・長崎に投下され、約50万人もの生命が奪われました。原爆ドームは「核兵器の廃絶と世界の恒久平和」を訴えており、まさに「二度と戦争を繰り返さない平和な世界をつくり出すこと」を目的に設立された、UNESCOの理念を象徴するモニュメントです。建造物自体は老朽化していかかもしれませんが、平和への祈り、平和活動への精神性が示されています。「原爆死没者慰霊碑」には、「安らかに眠って下さい 週ちは繰返しませぬから」と刻まれています。ユネスコ憲章前文「人の心の中に平和のとりで」の通り、人々が平和を思い起こすために、原爆ドームは大切にしたい重要な世界遺産です。世界各国の人々がそれぞれ誇りに思うどんな素晴らしい世界遺産でも、核兵器を使えば一瞬で焦土と化します。

2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効され、現在60カ国が批准し、多くの国々が「核兵器による安全」ではなく、「核兵器のない世界による安全」を選びました。唯一の戦争被爆国である日本こそ、核兵器廃絶の先頭に立たなければならないと思いますが、日本政府が署名も批准もしていない現状が残念でなりません。未来の地球が“猿の惑星”になるかもしれないのに! (2021年1月時点の世界の核兵器保有数は13,080)。



夜のウフィツィ美術館回廊から眺めたヴェッキオ橋